

主日礼拝5月16日（日）

題 『共にいてくださる主イエス』

テキスト：マタイによる福音書28章：16～20節

今日の聖書の個所は、マタイによる福音書最後の部分です。

よみがえられたイエスさまが、弟子として選ばれ愛された人たちをこの世に派遣される個所です。

「宣教命令」とも言われています。

◆弟子たちを派遣する

16:さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。

弟子たちは、本当は12人でした。しかし弟子のユダはイエスを裏切りそのことを悔いて自害したとされています。残った弟子は11人です。欠けていた心疲れ弱っていた弟子の状況を思います。

そのような無様といえる姿でも、弟子たちは「ガリラヤで会える」という主イエスの復活のことばを聞いて、彼らはガリラヤへと向かったのです。ガリラヤは彼らの故郷でもありました。彼らは、イエスが指示しておかれた山に登ったのです。

この山が、どの山なのかは不明なのですが、イエスさまが弟子たちを集めて神の教えを語られた「山上の説教」の山、丘ではないかという説が残っています。

ちなみに、このガリラヤ湖を見下ろせる山、丘の上に、古代から教会が建てられています。イエスが語られた8つの「幸いなるかな」の教えに従って、8角形の屋根の建物があります。

とにかく弟子たちは、イエスの言葉に従ってこの山に登ったのです。

そこで復活されたイエスさまに会えたのです。

そしてその山で派遣の命令を受けたのです。ちょうどその昔、シナイ山でモーセが神さまから十の戒めを受け、人々に伝えたことに似ていると思えます。

「17:そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。」

そこで、彼らはよみがえられたイエスに会う、イエスさまに再会するという体験をしたのです。その時、まず彼らがしたことは、イエスの前にひれ伏すということ。つまり礼拝したのです。

わたしたちもコロナ禍でも、このように日曜日ごとに集まって神さまに礼拝を捧げています。この礼拝も、神さまが備えられた山の上の礼拝から始まっていると言えるでしょう。

ほとんどの弟子はイエスを信じました。しかし、中には疑う者もいたのです。

疑うとは、心が迷う。定まらない状態のように思えます。わたしたちにもそのような時はあると思います。信じつつも疑っている状態があります。

そのような弱さを持つ弟子たちに、イエスさまの方から近づいて来られたのです。そして言葉をかけられました。これはうれしいことで慰められます。そして、時代を超えて主イエスは自分の選ばれた者たちに近づいて来てくださる方なのです。聖霊の助けにより、さまざまな方法で、自然を通して、祈りの中、賛美の中、礼拝の中で確実に近づき、親しくそばに来て、特に聖書のことばを通して、語りかけてくださるのです。「わたしはあなたと共にいる。」と。

わたしたちの置かれている状況、得に苦しみや悩みをご存じなのです。イエスは語られました。

18:イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。

イエスは、ご自身親しく「アバ父よ」と呼びかけておられた天と地の創り主なる神さまの子であり、人の子として地上にお生まれになりました。

神さまが救い主としてこの世に遣わしてくださったのです。

その神さまから、今や「一切の権能を授かっている。」と宣言しておられます。これは主イエスが、神さまと同じ力を授かれ、主となられたということです。イエスの弟子、イエスを信じる人々は、そのことを覚えておくようにということです。わたしもそれを信じます。

『権能』とは、物事を行う資格、また行う能力と言われます。イエスさまは神さまからその力を与えられた方なのです。

さて、わたしたちは、繰り返し起こる、台風や嵐の時、大地震、大津波、火山の噴火など、又コロナの感染は、とめてほしいと思います。

神さまはその力を持っておられるとしても、しかし、現実にはその力を使用されないように思えます。なぜ、どうしてなのかは分かりません。

と、言ってもわたしは若い日に自然現象に関する事で、とても不思議な体験をしたことがあるのです。通常ではありえないと思う不思議なことが祈りの後に実際に起こったのです。ただ一度だけの体験でしたが私にとっては忘れられないことでした。

自然を通して神さまの働きを思うこともありますが、人は、神さまにイエスさまに従って生きる中で、神さまの力を確実に知って行けるのだと思うのです。このことが何より大切なことだと思います。

カナで起こった、イエスの言葉に従い、水がめに水をいっぱいにいれた召し使いたちが、水が喜びのぶどう酒に変えられたことを知ったように、わたしたちもイエスさまに従う歩みの中で、さまざまな奉仕の中で、確かに神のなさを

不思議を目撃し知っていくことがあるのです。その時、神さまへの畏敬の念が生まれ、謙虚にされ、感謝と喜びに満たされるのです。

19:だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。

彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、

「あなたがたは行って。」イエスの言葉に従う中で、見させてもらえる不思議な良きことがある。奉仕の中で、受けとめることができることが必ずある。

「行って」とは、祈りから行いへの道です。わたしたちが行く時、そこに主イエス・キリストも共にいてくださる。一緒に行ってくださいなのです。

イエスに従う人々を見つけに行くのです。これは楽しい事なのです。労苦はありますが、喜びの体験ができるのです。詩編126編5節「涙と共に種を蒔く人は喜びの歌と共に刈り入れる。」とある通りです。イエスさまを神さまを信じて生きるために洗礼を受ける人を求めておられるのです。それは教会のイエスにある群れの奉仕、働きなのです。また、喜ぶ者と共に喜び泣く者と共に泣く中に、平和を作る働きの中に神さまは共にいてくださるのです。

「すべての民」とは、イスラエルの民だけではなく、全世界の人々なのです。

20:あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。

キリスト者は、イエスを伝え、互いに祈り合い、励まし合い、愛を持って教え合うのです。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」 欠けた弱い、わたしたちと共にいてくださるということです。欠けや弱さは、悪い事ではないのです。愛なる神さまとイエスさま知って行くために用いられることも大いにあるのです。主イエスの誕生に際して、マタイによる福音書1章23節に旧約聖書イザヤのことばが引用され、「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。そしてマタイの最後に復活された主イエスが「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」と語られたのです。歴史おける神さまの救いの計画があるのです。イエスさまはわたしたちと共にいてくださることを信じて、今日からも希望と勇気を持って歩みたいと願います。

◆弟子たちを派遣する

16:さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。

17:そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。

18:イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。

19:だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、

20:あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」